

7つの視点で現場に潜むムダを排除

7つのムダ

1. 7つのムダとは

企業が、多様化する消費者ニーズに応えながら収益性を高めるためには、業務の効率化、スリム化を進めることが重要である。そのためには、付加価値を生まない「ムダ」な活動を排除していかなければならない。

「7つのムダ」とは、付加価値を生まない諸要素として、トヨタ生産方式で定義されたものである。具体的には、①「つくりすぎのムダ」、②「手待ちのムダ」、③「運搬のムダ」、④「加工そのもののムダ」、⑤「在庫のムダ」、⑥「動作のムダ」、⑦「不良をつくるムダ」、を現場から徹底的に排除するように求められる。

2. 7つのムダの排除が必要な背景

消費者のニーズが多様化してきている現在では、企業は多品種少量生産を実現することが課題の一つとなっている。多品種少量生産において、従来の大ロット生産、稼働率重視の生産では、過大在庫の発生や、必要時に欠品が生じるなど、収益性を向上させることが難しい。そこで、企業は「必要なものを、必要なときに、必要なだけ」つくる生産体制を実現する必要がある。その方法の1つがJITに代表されるトヨタ生産方式である。

トヨタ生産方式においては、モノの流れを重視する。多品種のモノが滞りなく流れ、お客様に必要なときに届くようにしなければいけない。それを実現するには、現場に潜んでいる「7つのムダ」徹底的に排除して、生産の平準化を実現させる必要がある。

また、「7つのムダ」の排除することは、付加価値を生まない作業(=原価のみを増加させる作業)の排除であり、原価低減の活動でもある。

原価低減を推進し収益性を高めるためにも、製造現場では常に現場に潜む「7つのムダ」を排除する視点を持って「カイゼン」を進めることが必要となる。

ムダの種類	内容
①つくりすぎのムダ	その時点で必要のないものを余分につくること
②手待ちのムダ	前工程からの部品や材料を待って仕事ができないこと
③運搬のムダ	モノの必要以上の移動、仮置き、積替えなどのこと
④加工そのもののムダ	従来からのやり方の継続といって、本当に必要かどうか検討せず、本来必要の無い工程や作業を行うこと
⑤在庫のムダ	完成品、部品、材料が倉庫など保管され、すぐに使用されていないこと
⑥動作のムダ	探す、しゃがむ、持ち替える、調べるなど不必要な動きのこと
⑦不良をつくるムダ	不良品を廃棄、手直し、作り直しすること

3. 有効活用のポイント

「7つのムダ」の排除を有効に行うポイントは、「つくりすぎのムダ」を、他のムダに優先させて発生させないことである。理由は、この「つくりすぎのムダ」は、他のムダを発生させるうえに、他のムダが生じていることを隠してしまうことがあるからである。「つくりすぎのムダ」は「在庫のムダ」、「動作のムダ」、「運搬のムダ」を増やす。また、つくりすぎている間は従業員が忙しく動き続けるために、見かけ上は「手待ちのムダ」が隠れてしまう。実際には、必要のないものを作ることをやめれば従業員の手は空くことになり、すぐに「手待ちのムダ」が顕在化できる。

4. 「現場カダントツ化」のポイント

徹底して7つのムダを排除するためには、現場で働く従業員1人ひとりが「7つのムダ」の視点を持って、「カイゼン」を実施していくことがポイントである。そのためにも、従業員1人ひとりへの十分な教育と、動機付けを行いたい。

(小楠 貴宏)